

# 授業名: 作業療法概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
富永 孝之	病院・介護 老人保健施設 13年勤務	荒木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 作業療法や作業療法士について理解を深め、理学療法士としての資質を醸成する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①作業療法の歴史、定義、作業療法の現状と課題を知る。 ②作業療法士の教育、作業療法士の働く病院・施設等について理解する。 ③それらのことにより、リハビリテーションチームとしての相互理解を深める。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】 作業療法について学びますので、積極的な姿勢で臨んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	基礎作業療法学で学ぶ内容(Activityなど)の概要を知り、理解する。理学療法と作業療法の役割の違いについて学ぶ。				
2	作業療法の歴史と定義	作業療法の歴史および定義の変遷について学び、現在の作業療法士にとって、何が必要とされているのかを学ぶ。				
3	OT治療理論 基礎知識	作業療法で学ぶ治療理論について知り、理解する。				
4	諸活動と治療的価値	治療手段として使用される”Activity”の活動分析を通して、作業療法の治療的価値を説明できる。				
5	手の機能とスプリント・自助具	手の機能について理解し、スプリントの治療的価値を学ぶ。疾患・症状に合わせた自助具の役割を学ぶ。				
6	各領域での作業療法 1	身障・精神・発達・老年の各領域における作業療法の目的や役割について概要を知り、説明できる。				
7	各領域での作業療法 2	身障・精神・発達・老年の各領域における作業療法の目的や役割について概要を知り、説明できる。				
8	まとめ	コ・メディカルとしての作業療法について理解する。 レポート課題について(DVD鑑賞)				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	後期期末試験	評価方法	レポート	100%		0%
				0%		0%
【教科書】特に定めない						
【参考書】参考となるものがあれば、その都度紹介する。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各自の健康(体と心と環境)について、(趣味など)具体的に経験してほしい。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

# 授業名: 言語療法概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
中村 くみ子	一般	荒木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	8(15)
			【曜日・コマ】	月 4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 言語障害、高次脳機能障害、聴覚障害、摂食嚥下障害などの臨床症状を理解し、言語療法や嚥下治療の概要を学ぶ。また「コミュニケーション」についてより理解し、OT場面への応用を学ぶ。					【受講して得られる力】 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①「言語」の持つ身体・生理学的特徴、個体発達上の特徴、心理・精神的、対人関係・社会的特徴を知る。 ②言語障害の多様性を知る。 ③治療的介入についての概要を学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	言語聴覚療法総論		言語聴覚療法概論 言語聴覚士の歴史、定義、職務、対象障害、連携			
2	失語症		失語症について 症状、評価、訓練			
3	高次脳機能障害		高次脳機能障害について 失行、失認、記憶障害、注意障害、認知症など			
4	構音障害		構音障害について 運動性・機能的・器質性の症状、評価、訓練			
5	その他のコミュニケーション障害		音声障害、喉頭摘出、吃音について 症状、評価、訓練、AAC、意志伝達装置など			
6	言語発達障害		言語発達障害について 症状、評価、訓練			
7	聴覚障害		聴覚障害について 症状、評価、訓練、補聴器・人工内耳			
8	摂食・嚥下障害		摂食・嚥下障害について 症状、評価、訓練、チームアプローチ			
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】随時、資料配布						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】	教員室にて	

授業名： 理学療法演習Ⅲ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 臨床実習へ参加するにあたり、主として中枢神経疾患に対する評価技能の習得、および医療人として相応しい態度を身につけるための演習を行う。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①臨床実習を行うにあたり、中枢神経疾患患者に対する評価の意義・目的を理解した上で、一連の評価が実施できる。						
【履修上の注意】		臨床実習での実践をイメージして技術の習得ができるよう臨むこと。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	客観的臨床能力試験(OSCE)	OSCEの概要、実施方法について理解する				
2	リスク管理	転倒予防、点滴、およびカテーテル管理について理解した上で、起居・移乗動作が適切に実施できるよう演習を行う。				
3	移乗介助	対象に合わせた基本動作、移乗介助が適切に実施できるよう演習を行う。				
4	コミュニケーション技法	言語的、非言語的コミュニケーションについて理解し、自己紹介、会話が適切にできるよう演習を行う。				
5	脈拍・血圧測定	バイタルサイン測定の目的を理解した上で、脈拍・血圧の測定が適切に実施できるよう演習を行う。				
6	脳卒中の麻痺側運動機能の評価①	Brunnstrom Recovery Stage テストを適切に実施できるよう演習を行う。				
7	脳卒中の麻痺側運動機能の評価②	上田の12段階式片麻痺機能テストを適切に実施できるよう演習を行う。				
8	脳神経検査①	各種脳神経検査の方法を理解し適切に実施できるよう演習を行う。				
9	脳神経検査②	各種脳神経検査の方法を理解し適切に実施できるよう演習を行う。				
10	感覚検査	温・痛・触圧感覚、深部感覚検査を適切に実施できるよう演習を行う。				
11	反射検査	深部腱反射、病的反射検査を適切に実施できるよう演習を行う。				
12	マスタリングテスト	脳神経検査、感覚検査、反射検査の習得状況の確認を行う。				
13	運動失調検査	協調運動障害の各種検査を適切に実施できるよう演習を行う。				
14	医療面接	療法士面接の目的を理解し適切に実施できるよう演習を行う。				
15	中枢神経疾患の評価	症例に則した検査法が選択でき、一連の評価ができるよう演習を行う。				
期末試験	客観的臨床能力試験(OSCE) (中枢神経疾患)	評価方法	OSCE	90%		0%
			実技試験	10%		0%
【教科書】 PT・OTのための臨床技能とOSCE 第2版補訂版 (金原出版)						
【参考書】 理学療法検査測定ガイド 第2版 (文光堂), 理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 検査・測定演習Ⅰ・Ⅱの知識と技術の復習をしておくこと。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

# 授業名： 医療英会話

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
Robert Holt	英会話講師 14年勤務	荒木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火・木 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 The syllabus is designed to give students exposure to medical English. Lessons will focus on a topic that will allow students to practise English as either a doctor or a patient.					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 Students will be expected to use English in class. English will be presented in a number of ways, i.e. reading, listening etc, and students will be expected to try to communicate in English.					知識・理解 コミュニケーションスキル 態度・志向性 統合的学習体験	
【履修上の注意】		Homework as and when set. Students will need a dictionary in class.				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	Polio	Reading comprehension – Polio. Common vocabulary. Discussing health state with hospital receptionist.				
2	Prescription	Reading comprehension – Prescription. Common vocabulary. Talking to the doctor.				
3	Hay Fever	Reading comprehension – Hay Fever, allergy. Common vocabulary. Common doctor questions.				
4	Diarrhoea	Reading comp. – Anti-Diarrheal/Anti-gas. Common vocab. Describing ailment.				
5	Sleeping problems	Reading comp. – Sleep problems. Common vocabulary. Talking about causes of sleep problems / stress.				
6	SARS	Reading comp. – SARS. Common vocab. Describing treatment.				
7	Diabetes	Reading comp. – Diabetes. Common vocab. Confirming information.				
8	Arterial Diseases	Reading comp. – Arterial Diseases. Common vocab. Everyday medical conversation.				
9	Health Insurance	Reading comp. – Health Insurance in the US. Common vocab. Giving advice.				
10	Food allergies	Reading comprehension – Food allergies. Common vocab. Showing concern.				
11	Carpal Tunnel Syndrome	Reading comp. – Carpal Tunnel Syndrome. Common vocab. Asking follow up questions.				
12	Sports Injuries	Reading comp. – Sports related injuries. Common vocab. Describing pain; pain scales.				
13	The Change of Life	Reading comp. – The change of life. Common vocab. Everyday conversation.				
14	Vitamin D	Reading comp. – Vitamin D. Common vocab. Everyday medical conversation.				
15	Flu Shots	Reading comp. – Flu Shots. Common vocab. Everyday medical conversation.				
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】English For Medicine – T. Nishihara, M. Nishihara and A Martin.						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて		

# 授業名： 医療統計学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
野田 工	一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 医療統計解析の結果を解釈・評価するための基礎的な知識を学ぶ。医療統計解析の研究デザインの基本的な考え方と方法について学習する。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①医療統計解析の研究デザインの概要を理解する。 ②2グループ間の平均の検定法, および度数と割合の検定方法について理解する。 ③診断・検査, 分析疫学に用いる基本的な考え方と統計的な取り扱いについて理解する。						
【履修上の注意】		電卓(ルート計算機能付き)を持参することが望ましい				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	医療統計学とは	オリエンテーション, 医学研究における統計学の役割 医療統計学の役割と研究デザインについて理解できる				
2	記述統計学の復習	度数分布, 代表値, 平均, 分散 記述統計学の基礎用語と性質を理解できる				
3	正規分布, t分布の復習	正規分布, t分布 重要な確率分布である正規分布, t分布について理解できる				
4	区間推定の復習	点推定と区間推定 点推定と区間推定の違いについて理解できる				
5	仮説検定の復習	仮説検定の手順, 仮説検定におけるエラー, 仮説検定の実際 母集団に差がないかどうかを調べるための仮説検定について理解できる				
6	平均の比較 1	平均の検定, 対応のない2群の平均の差の検定 対応のない2グループ間の平均の差を調べるために用いるt検定について理解できる				
7	平均の比較 2	対応のある2群の平均の差の検定 対応のある2グループ間の平均の差を調べるために用いるt検定について理解できる				
8	相関と回帰	相関係数, 相関係数の検定, 最小二乗法, 回帰直線 2グループ間のデータの相関関係を把握するために用いる相関と回帰について理解できる				
9	$\chi^2$ 分布, F分布	$\chi^2$ 分布, F分布 連続型確率分布である $\chi^2$ 分布, F分布について理解できる				
10	度数と割合の比較 1	クロス集計表の独立性の検定, 適合度の検定 2グループ間のデータの度数や割合に差がないかどうかを調べるために用いる検定方法について理解できる				
11	度数と割合の比較 2	2群の割合の差の検定 2グループ間のデータの度数や割合に差がないかどうかを調べるために用いる検定方法について理解できる				
12	診断・検査	感度・特異度, 尤度比 診断・検査に必要な確率の考え方のうち, 感度・特異度, 尤度比を理解する				
13	分析疫学	調査法, 症例対照研究, コホート研究 分析疫学の手法と調査法について理解できる				
14	オッズ比の検定	オッズ比, オッズ比の信頼区間 2グループ間のデータの比率の相関関係を把握するために用いるオッズ比検定について理解できる				
15	まとめ	これまでのまとめと復習 今までの講義内容を振り返ることにより, 医療統計学に関する知識の定着化を図る				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	50%	授業への貢献	20%
			レポート	30%		0%
【教科書】今日から使える リハビリテーションのための統計学 高橋仁美 加賀屋齊 医歯薬出版株式会社						
【参考書】はじめての統計15講 小寺平治 講談社						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】2群間の比較の検定・クロス集計表について具体例を計算する						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 理学療法評価学(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 臨床実習に向けて、症例に関する日々の記録(デイリーノート)の記載練習を行い、理学療法を実施するにあたっての系統的評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程の基本的流れを把握する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①デイリーノートの記載方法を習得する。 ②記載していく過程の中で、評価から統合と解釈、考察するまでの臨床思考能力を習得する。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】		臨床実習における理学療法士の思考過程をイメージして臨むこと。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	理学療法評価	評価の目的とその記録の必要性について理解する。				
2	臨床思考過程の基本的流れ	臨床推論プロセスとその記録の重要性について理解する				
3	デイリーノート	作成目的と方法を理解し記載内容とその書き方を学ぶ				
4	運動器疾患①	運動器疾患に対する評価と理学療法の視点、および記載する内容のポイントについて学ぶ。				
5	運動器疾患②					
6	運動器疾患③					
7	運動器疾患④					
8	運動器疾患⑤					
9	運動器疾患⑥					
10	運動器疾患⑦					
11	運動器疾患⑧					
12	運動器疾患⑨					
13	疼痛①	疼痛に対する評価と理学療法の視点、および記載する内容のポイントについて学ぶ。				
14	疼痛②					
15	疼痛③					
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】 臨床実習フィールドガイド 改訂第2版 (南江堂)						
【参考書】 特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業テーマの視点について、教科書の該当箇所を読み返しておくこと。				
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 理学療法評価学(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	水 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
臨床実習に向けて、症例に関する日々の記録(デイリーノート)の記載練習を行い、理学療法を実施するにあたっての系統的評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程の基本的流れを把握する。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】						
①デイリーノートの記載方法を習得する。 ②記載していく過程の中で、評価から統合と解釈、考察するまでの臨床思考能力を習得する。						
【履修上の注意】		臨床実習における理学療法士の思考過程をイメージして臨むこと。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	神経筋疾患①	神経筋疾患に対する評価と理学療法の視点、および記載する内容のポイントについて学ぶ。				
2	神経筋疾患②					
3	神経筋疾患③					
4	脳血管疾患①	脳血管疾患に対する評価と理学療法の視点、および記載する内容のポイントについて学ぶ。				
5	脳血管疾患②					
6	脳血管疾患③					
7	脳血管疾患④					
8	脳血管疾患⑤					
9	脳血管疾患⑥					
10	高次脳機能障害①	高次脳機能障害に対する評価と理学療法の視点、および記載する内容のポイントについて学ぶ。				
11	高次脳機能障害②					
12	高次脳機能障害③					
13	認知症①	認知症に対する評価と理学療法の視点、および記載する内容のポイントについて学ぶ。				
14	認知症②					
15	認知症③					
期末試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	90%		0%
			受講態度	10%		0%
【教科書】 臨床実習フィールドガイド 改訂第2版 (南江堂)						
【参考書】 特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		各授業テーマの視点について、教科書の該当箇所を読み返しておくこと。				
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】		教員室にて	

# 授業名： リハビリテーション工学演習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3		
添田・荒木・十文字		一般	添田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
				【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	演習 1	
【授業の概要】 生活支援、福祉工学の観点から工学的手法と思考を発展させたリハビリテーション工学の概要、及び実際に利用するための研究方法論について学習する。					【受講して得られる力】			
【学習目標(到達目標)】 ①リハビリテーションにおける定量的解析とその意義について理解する。 ②生活科学における統計量の扱い方を身につける。 ③生理的変化量を数値化する方法を体験し理解する。 ④工学的手法を用いた生活支援が提案できるようになる。					前に踏み出す力 チームで働く力 情報活用能力 統合的学習体験 論理的思考力 創造的思考力			
【履修上の注意】各グループは担当の教員とスケジュール調整を行い、積極的に実施する。								
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション 1 (添田)		理学療法における研究の意義とは 研究倫理、研究方法について理解する					
2	オリエンテーション 2 (添田)		研究論文の一般的形態と文献の読み方とまとめ方 研究論文の一般的な形態を理解し、文献カードの作成ができる					
3	グループワーク 1 (添田・荒木)		グループ分け、テーマと研究方法の決定 担当教員と打ち合わせを行い、グループワークのアウトライン(テーマ、研究方法)を決定する					
4	グループワーク 2 (添田・荒木)		統計処理や周辺知識などの関連情報の収集 テーマに関わる統計処理や周辺知識などの関連情報を収集し、その内容を理解する					
5	グループワーク 3 (添田・荒木)		実験計画の作成 学習した研究方法論に基づいて、具体的で詳細な実験計画を作成する					
6	グループワーク 4 (添田・荒木)		予備実験の実施 実験計画に従って予備実験を行い、予備実験のデータを収集する					
7	グループワーク 5 (添田・荒木)		予備実験結果の検討と計画修正 予備実験のデータを統計処理し、その結果を検討して、最終的な実験計画を作成する					
8	グループワーク 6 (添田・荒木)		本実験の実施 実験計画に従って本実験を行い、本実験のデータを収集する					
9	グループワーク 7 (添田・荒木)		同上					
10	グループワーク 8 (添田・荒木)		本実験とデータ解析の実施 本実験のデータ収集を完了し、実験計画に従ってデータを統計処理する					
11	グループワーク 9 (添田・荒木)		同上					
12	グループワーク 10 (添田・荒木)		データ解析結果のまとめ 統計処理の結果をグラフや表などにまとめる					
13	グループワーク 11 (添田・荒木)		考察、発表会の準備 本実験のデータ解析結果から考察を行うとともに、発表会用のプレゼン資料を作成する					
14	発表会 (添田・荒木)		結果の発表と討論 グループ毎にグループワークの結果を発表し、その内容に対して質疑応答を行う					
15	発表会 (添田・荒木)		グループワークの評価 グループワークに対して、自己評価とグループ評価を組み合わせた多面的な評価を行う					
期末試験	前期末試験		評価方法	発表会の結果	50%	受講態度	10%	
				課題の達成度	40%		0%	
【教科書】特に指定しない								
【参考書】「計測法入門」 測り方、計る意味(内山靖・他 編、協同医書出版社)								
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】Excel, Word, Powerpointを使用できるようにしておく。								
【本講義に関する質問先】			担当教員		【質問方法】			教員室にて



授業名: 検査・測定演習Ⅱ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期A・木 1・2 前期B・火 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 2	
【授業の概要】					【受講して得られる力】		
理学療法を行うにあたり患者の状態を評価することは重要なことである。理学療法検査・測定および評価の目的や意義を理解し、実際に検査・測定を行う。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】							
①検査・測定の目的と方法を理解する。 ②学生同士で実際に測定できることを目標とする。 ③代表的な疾患に対する検査・測定の項目を挙げるができる。							
【履修上の注意】実技(検査部位の肌露出)が可能な動きやすい服装。スカート・ジーパン不可。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	コースオリエンテーション		運動療法における評価とは 本コースの意義を知り、評価・臨床実習における運動療法評価の重要性について考える				
2	上肢 関節可動域測定(肩関節)		関節可動域測定の目的、可動域制限因子を理解する。 身体の基本的肢位、運動方向を理解する。 関節可動域測定の基本軸・移動軸・参考可動域を理解する。 上肢の各関節可動域測定の方法を理解する。 上肢の各関節可動域測定が実施できる。 測定結果を解釈し、記載できる。				
3	上肢 関節可動域測定(肩関節)						
4	上肢 関節可動域測定(肘関節)						
5	上肢 関節可動域測定(手関節)						
6	上肢 関節可動域測定(手指)						
7	上肢 関節可動域測定						上肢の各関節可動域測定方法の確認
8	下肢 関節可動域測定(股関節)		関節可動域測定の基本軸・移動軸・参考可動域を理解する。 下肢の各関節可動域測定の方法を理解する。 下肢の各関節可動域測定が実施できる。 測定結果を解釈し、記載できる。				
9	下肢 関節可動域測定(股関節)						
10	下肢 関節可動域測定(膝関節)						
11	下肢 関節可動域測定(足関節)						
12	下肢 関節可動域測定		下肢の各関節可動域測定方法の確認				
13	頸部・体幹 関節可動域測定		頸部・体幹の各関節可動域測定の方法を理解する。 頸部・体幹の各関節可動域測定が実施できる。				
14	まとめ		マスタリングテストにて関節可動域測定のまとめを行う。				
15							
期末 試験	前期期末試験		評価方法	受講態度	20%	筆記試験	40%
				実技試験	40%		0%
【教科書】①理学療法評価学 改訂第6版 ②PT/OTのための測定評価 ROM測定 第2版 ③新・徒手筋力検査法 原著第9版							
【参考書】特に指定しない							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実技を繰り返し実施し、技術習得に励むこと。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 検査・測定演習Ⅱ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期A・木 1・2 前期B・火 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
理学療法を行うにあたり患者の状態を評価することは重要なことである。理学療法検査・測定および評価の目的や意義を理解し、実際に検査・測定を行う。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】						
①検査・測定の目的と方法を理解する。 ②学生同士で実際に測定できることを目標とする。 ③代表的な疾患に対する検査・測定の項目を挙げるができる。						
【履修上の注意】実技(検査部位の肌露出)が可能な動きやすい服装。スカート・ジーンズ不可。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	筋力検査(下肢;股)	筋力検査の目的、種類を理解する。 粗大筋力検査の方法を理解する。 徒手筋力検査の目的、判定基準、テスト方法について理解する。 筋持久力検査方法を理解する。 麻痺筋の代償運動を理解する。 粗大筋力、徒手筋力、持久力の検査が実際にできる。				
2	筋力検査(下肢;膝)					
3	筋力検査(下肢;膝)					
4	筋力検査(下肢;足部)					
5	筋力検査(上肢;肩)					
6	筋力検査(上肢;肩)					
7	筋力検査(上肢;肘)					
8	筋力検査(上肢;肘)					
9	筋力検査(上肢;手)					
10	筋力検査(上肢;手指)					
11	筋力検査(体幹)					
12	筋力検査(頸部)					
13	脳神経支配筋の検査	四肢・体幹の検査との違いを理解し、検査が実際にできる。				
14	まとめ	マスタリングテストにて徒手筋力検査のまとめを行う。				
15						
期末試験	前期期末試験	評価方法	受講態度	20%	筆記試験	40%
			実技試験	40%		0%
【教科書】①理学療法評価学 改訂第6版 ②PT/OTのための測定評価 ROM測定 第2版 ③新・徒手筋力検査法 原著第9版						
【参考書】特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】実技を繰り返し実施し、技術習得に励むこと。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】			
			教員室にて			

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 1・2	【授業形態・単位】	演習 1
【授業の概要】 義肢装具のチェックアウトと異常歩行について再確認する。短下肢装具の採型ができるようになる。義肢装具士によるソケット等の作製の行程を見学して製法や留意点などを学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①各種義肢装具の名称、基本構造、特徴・用途をマスターする。 ②義肢装具のチェックアウトと異常歩行の原因推察ができるようになる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	下肢切断の評価		下肢切断の評価について体験し、理解する			
2	継手の確認		足継手と膝継手、股継手の機能と義足歩行について体験し、理解する			
3	義肢のチェックアウト		下腿義足、大腿義足のチェックアウトができるようになる			
4	アライメント調整と異常歩行		ベンチアライメントを調整する			
5	アライメント調整と異常歩行		調整した義足を装着し、歩行時に生じる現象を考える			
6	下肢切断者に対する理学療法		下肢切断者の理学療法について体験し、理解する			
7	義肢装具の採型		プラスチック式短下肢装具の採型を実施する			
8	義肢装具の採型		同上			
9	義肢の作成見学、体験 (齋藤)		切断者に対する義肢の作成見学と体験を実施する			
10	義肢の作成見学、体験 (齋藤)		同上			
11	短下肢装具のチェックアウト		短下肢装具のチェックアウトができるようになる			
12	短下肢装具のチェックアウト		短下肢装具のチェックアウトができるようになる			
13	長下肢装具のチェックアウト		長下肢装具のチェックアウトができるようになる			
14	長下肢装具のチェックアウト		長下肢装具のチェックアウトができるようになる			
15	まとめ		まとめ			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 義肢学および装具学 (中山書店)						
【参考書】義肢装具のチェックポイント(第8版)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】2年次の義肢・装具学の復習を十分にすること						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp

授業名: 物理療法学(1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期A・火 1・2 前期B・木 1・2	【授業形態・単位】	講義/演習・実習 3
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えること によって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ				前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する ②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する ③物理療法の適応やリスク(注意・禁忌事項)を理解する						
【履修上の注意】		グループワークは、積極的に参加する。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	物理療法の基礎	物理療法の定義、歴史、リハビリテーションにおける物理療法の役割、 位置づけ、今後の課題について説明できる				
2	測定機器の練習	物理療法の効果を測定する機器を使用できるようにする				
3	温熱療法の概要	物理療法に必要な基礎的理論として熱、温熱療法の概要について学ぶ				
4	温熱療法各論	表在性温熱療法の代表として、ホットパック、パラフィン浴について学ぶ				
5	エネルギー変換療法の概要	エネルギー変換療法の種類、分類生理学的効果について理解する エネルギー変換療法の適応と禁忌について理解する				
6	極超短波・超短波療法	極超短波治療器:従来型、パルスマイクロ波について 超短波治療器、コンデンサー法、コイル法について理解する				
7	超音波療法	超音波とは、超音波療法の概要 超音波療法の効果を左右する因子				
8	超音波療法	超音波治療器:パルス・持続モード、1Mzと3Mzの使い分け 超音波療法の効果・エビデンスについて理解する				
9	寒冷療法	寒冷療法の概要について、分類、生理学的作用 寒冷療法の効果・エビデンス				
10	寒冷療法	伝導冷却法、気化冷却法				
11	電気刺激療法の概要	電気エネルギーとは 電気刺激療法の分類、用語				
12	電気刺激療法(1)	疼痛コントロール、経皮的電気神経刺激(TENS) 干渉波電流				
13	電気刺激療法(2)	運動の制御、神経筋電気刺激(NMES) その他の電気刺激(HVPC,MESなど)				
14	光線療法	光線療法の概要、スポット型近赤外線治療器 紫外線治療器、遠赤外線治療器				
15	牽引療法	牽引治療器(頸椎および腰椎) 持続牽引、間歇牽引、刺激量、時間				
期末 試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版, 南江堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】:1年次で学習した生理学の知識は不可欠です。特に呼吸・循環系や神経・筋、代謝等に関する生理学の復習を十分にしておいてください						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

授業名: 物理療法学(2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期A・火 1・2 前期B・木 1・2	【授業形態・単位】	講義/演習・実習 3
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えること によって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ				前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する ②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する ③物理療法の適応やリスク(注意・禁忌事項)を理解する						
【履修上の注意】		グループワークは、積極的に参加する。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	圧迫療法・マッサージ療法	マッサージ(軽擦法、柔捏法、叩打法など) 外的圧迫の効果、圧迫の臨床適応など				
2	圧迫療法・マッサージ療法	同上				
3	コンビネーション治療・トピックス	温熱と電気刺激のコンビネーション治療、運動療法と物理療法とのコンビネーション治療などを学ぶ 物理療法に関するトピックス(振動刺激・磁気刺激など)を知る				
4	水治療法	水の物理的作用について理解する 部分浴(上肢用・下肢用)、全身浴(温水・不感温度)機器の使用方法を学ぶ。				
5	水中運動療法	アクアティック・リハビリテーションの実際を学ぶ。 リラクゼーション・ストレッチング・セラピーなどの実習を行う。				
6	水中運動療法	各エネルギーの適切な使用法を実習し、生体の反応を観察する				
7	超音波療法総論	国試問題による演習				
8	超音波療法各論	国試問題による演習				
9	電気療法総論	国試問題による演習				
10	TENS総論、各論	国試問題による演習				
11	NMES総論、各論	国試問題による演習				
12	グループワーク 1	各種物理療法演習				
13	グループワーク 1	各種物理療法演習				
14	グループワーク 2	各種物理療法演習				
15	グループワーク 2	各種物理療法演習				
期末 試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%	
【教科書】シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版, 南江堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】: 1年次で学習した生理学の知識は不可欠です。特に呼吸・循環系や神経・筋、代謝等に関する生理学の復習を十分にしておいてください						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

授業名: 物理療法学(3/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	後期A・月 3・4 後期B・火 1・2	【授業形態・単位】	講義/演習・実習 3
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
各種物理的刺激(温熱・寒冷、電気・電磁波、機械的刺激など)生体に与えること によって得られる反応を治療や予防に用いる手段を学ぶ				前に踏み出す力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①理学療法における物理療法の位置づけと意義を理解する ②各種物理的刺激に伴う生体反応について理解する ③物理療法の適応やリスク(注意・禁忌事項)を理解する						
【履修上の注意】		グループワークは、積極的に参加する。				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	グループワーク 3	各種物理療法演習				
2	グループワーク 3	各種物理療法演習				
3	グループワーク 4	各種物理療法演習				
4	グループワーク 4	各種物理療法演習				
5	グループワーク 5	各種物理療法演習				
6	グループワーク 5	各種物理療法演習				
7	グループワーク 6	各種物理療法演習				
8	グループワーク 6	各種物理療法演習				
9	グループワーク 7	各種物理療法演習				
10	グループワーク 7	各種物理療法演習				
11	グループワーク 8	各種物理療法演習				
12	グループワーク 8	各種物理療法演習				
13	グループワーク 9	各種物理療法演習				
14	グループワーク 9	各種物理療法演習				
15	まとめ	まとめ				
期末 試験	レポート課題	評価方法	レポート	80%		0%
			受講態度	20%		0%
【教科書】シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 第2版, 南江堂						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】: 1年次で学習した生理学の知識は不可欠です。特に呼吸・循環系や神経・筋, 代謝等に関する生理学の復習を十分にしておいてください						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

授業名： 中枢系理学療法学Ⅱ(1/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・水 3・4	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
【履修上の注意】		実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	中枢神経疾患に対する評価	脳血管障害の評価法について学ぶ 脳血管障害に対する評価の進め方を理解することが出来る				
2	中枢神経疾患のプログラムの作成	中枢神経疾患のプログラムの作成 脳血管障害者の治療プログラムを作成することが出来る				
3	急性期・回復期理学療法の目的	急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る				
4	急性期・回復期理学療法の目的	急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る				
5	脊髄損傷について	脊髄の機能解剖や脊髄損傷の原因について理解する 脊髄の機能解剖や脊髄損傷の症状について説明が出来る				
6	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷に随伴する症状について理解する 脊髄損傷に随伴する症状について説明することが出来る				
7	脊髄損傷の理学療法	脊髄損傷の評価の考え方について理解する 脊髄損傷の評価項目を挙げることが出来る				
8	外傷性脳損傷について	急性硬膜下血腫、硬膜外血腫、びまん性軸索損傷について学ぶ 急性硬膜下血腫、硬膜外血腫、びまん性軸索損傷について説明できる				
9	運動失調の理学療法	運動失調の病因・症状について学ぶ 運動における小脳の働きを説明することが出来る				
10	運動失調の理学療法	失調症の理学療法に対する考え方を学ぶ 失調症の運動療法に必要な固有感覚の情報について説明が出来る				
11	パーキンソン病とは	パーキンソン病の病因と症状について学ぶ パーキンソン病の病因と症状について説明することが出来る				
12	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の治療の実技を学ぶ パーキンソン病の治療の実践する事が出来る				
13	パーキンソン病の理学療法	パーキンソン病の治療の実技を学ぶ パーキンソン病の治療の実践する事が出来る				
14	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症について	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病因と症状の特徴について学ぶ 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の病因と症状の特徴について説明することが出来る				
15	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症について	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価と治療の実技を学ぶ 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価と治療を実践することが出来る				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%	0%	0%
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ 協同医書出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ 脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】2年次の中枢系理学療法学Ⅰ, 神経内科学の復習を十分にすること						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

授業名： 中枢系理学療法学Ⅱ(2/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・水 3・4	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】 中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
【履修上の注意】		実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	高次機能障害 総論	高次機能障害について理解する 高次機能障害について説明できる				
2	高次機能障害のリハビリテーション	記憶障害、注意障害の評価とリハビリテーションについて理解する 記憶障害、注意障害の評価とリハビリテーションについて説明できる				
3	高次機能障害のリハビリテーション	失認、失行、遂行機能障害の評価とリハビリテーションについて理解する 失認、失行、遂行機能障害の評価とリハビリテーションについて説明できる				
4	ボバース概念	ボバース概念治療の実際について体験する				
5	人間発達学的アプローチの実技	ヒトが生まれてから歩くまでの発達段階に分けたアプローチについて学ぶ ヒトが生まれてから歩くまでの発達段階に分けたアプローチを行うことができる				
6	促通反復療法	促通反復療法の概要について理解する 促通反復療法の概要について説明できる				
7	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
8	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
9	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
10	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
11	促通反復療法	促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる				
12	CI療法, 課題指向型アプローチ	CI療法, 課題指向型アプローチの概要について理解する CI療法, 課題指向型アプローチの概要について理解する				
13	CI療法, 課題指向型アプローチ	CI療法, 課題指向型アプローチの実際について体験する CI療法, 課題指向型アプローチの実際について体験する				
14	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療手技(トピックス) 中枢神経疾患に対する色々な治療手技について挙げる事ができる				
15	中枢神経疾患に対する治療法	中枢神経疾患に対する治療手技(トピックス) 中枢神経疾患に対する色々な治療手技について挙げる事ができる				
期末試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ. 協同医学出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】2年次の中枢系理学療法学Ⅰ, 神経内科学の復習を十分にすること						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	



授業名： 中枢系理学療法学(3/3)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	後期A・火 1・2 後期B・月 3・4	【授業形態・単位】	講義・演習 3
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 創造的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
【履修上の注意】		実技中心なので運動しやすい服装に留意してください。ジーンズでの受講は出来ません				
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	制御理論的アプローチ	制御理論的アプローチの理論を学ぶ 制御理論的アプローチについて説明することが出来る				
2	制御理論的アプローチ:上肢	上肢に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 上肢に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る				
3	制御理論的アプローチ:下肢	下肢に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 下肢に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る				
4	制御理論的アプローチ:体幹	体幹に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 体幹に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る				
5	PNFとは	PNFの理論的背景について学ぶ PNFの理論的背景について説明できる				
6	上肢のPNF	上肢の各関節を軸とした3軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 肩関節を中心としたパターンを実践することが出来る				
7	上肢のPNF	上肢の各関節を軸とした3軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 肩関節を中心としたパターンを実践することが出来る				
8	下肢のPNF	下肢の各関節を軸とした4軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 股関節を軸としたパターンを実践することが出来る				
9	下肢のPNF	下肢の各関節を軸とした4軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 股関節を軸としたパターンを実践することが出来る				
10	体幹のPNF	体幹の各関節を軸とした4抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。				
11	まとめ					
12	脳画像と臨床症状 (阿部)	脳画像を把握する意義について理解する 各種脳画像の特徴と見方を理解する				
13	脳画像と臨床症状 (阿部)	脳画像における皮質脊髄路と言語野を理解する 臨床症状と脳画像から理学療法プログラムを立案する過程について理解する				
14	運動学習と理学療法 (木村)	運動学習の概念について理解する 運動学習の概念について説明することができる				
15	運動学習と理学療法 (木村)	運動学習の概念について理解する 運動学習の概念について説明することができる				
期末 試験	後期期末試験	評価方法	課題の達成度	50%		0%
			筆記試験	50%		0%
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ. 協同医書出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実技の復習は当日必ずする				
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】		教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	前期・金 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】 種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深める。 ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解する。 ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行える。							
【履修上の注意】 実習の際は、触診・実技が可能な服装を用意する。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	組織再生・修復①—総論		組織修復、組織再生に伴う理学療法実施上の注意点を理解する 炎症過程、修復過程にあわせた治療理論				
2	組織再生・修復②評価と治療		炎症の5徴候についての基本的な評価手技が実践できる				
3	組織再生・修復③評価と治療		周径測定、筋力、関節可動域、疼痛スケール、炎症治療				
4	骨折と脱臼①総論		骨折と脱臼の定義と病体について理解する				
5	骨折と脱臼②治療と評価		骨折と脱臼全般に通ずる評価と治療について理解する				
6	骨折と脱臼③上肢骨折		関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、ADLTトレーニング				
7	骨折と脱臼④大腿骨頸部骨折		高齢者の運動特性、上肢骨折の保存的、観血的治療について理解する				
8	骨折と脱臼⑤脊椎圧迫骨折		脊椎圧迫骨折について理解する				
9	四大骨折の評価と治療		四大骨折それぞれに対する評価と治療について実践できる				
10	四大骨折の評価と治療		関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、骨折予防トレーニングなど				
11	変形性股・膝関節症①総論		変形性関節症の病態、基本的な治療、目的について理解する 変形性股関節症、変形性膝関節症				
12	変形性股・膝関節症②評価		基本的な評価と治療手技が実践できる 画像所見も含め総合的な評価を行う。				
13	変形性股・膝関節症③治療		関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、ADLTトレーニングなど				
14	人工股・膝関節置換術①総論		人工関節の構造と機構、適応について理解する 人工骨頭、THA、TKAなど				
15	人工股・膝関節置換術②ADL'ex		人工関節術後のリスクを考慮した治療、日常生活指導ができる ADLTトレーニング、家庭での運動プログラム				
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	70%	実技試験	20%
				受講態度	10%		0%
【教科書】運動器障害理学療法学 I・II (15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)							
【参考書】PT・OTビジュアルテキスト局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学知識(筋の走行など)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	前期・金 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】 種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深める。 ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解する。 ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行える。							
【履修上の注意】 実習の際は、触診・実技が可能な服装を用意する。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	関節リウマチ①総論		関節リウマチについて病態、一般的な整形外科的、内科的治療が理解できる				
2	関節リウマチ②評価と治療		関節に負荷をかけない評価、治療が行える 関節可動域訓練、筋力増強トレーニング、運動プログラム、ADL指導				
3	末梢神経損傷①総論		末梢神経損傷の病態と回復過程が理解できる セドンの分類、診断、手術療法				
4	末梢神経損傷②評価と治療		末梢神経損傷の回復過程に即した評価と治療が実践できる				
5	頸部疾患①総論		代表的な頸部疾患の病態、神経根症と頸髄症の違いを理解できる 頸椎症、OPLL、頸椎椎間板ヘルニア				
6	頸部疾患②評価と治療		神経根症と頸髄症の症状に対する評価、理学療法が実践できる				
7	腰部疾患①総論		腰痛を伴う疾患についてその病態が理解できる 腰部の構造、腰部にかかる負荷、腰椎ヘルニアなど				
8	腰部疾患②評価と治療		腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離症、腰椎すべり症、筋筋膜性腰痛など				
9	腰部疾患③評価と治療		腰痛の評価から治療を選択でき、実施できる 各種検査、腰痛体操、ストレッチング、姿勢矯正運動				
10	脊椎手術①		脊椎手術と対応する理学療法について理解し、 術所見読解のポイントが分かる				
11	脊椎手術②		術後の中枢・末梢性の神経障害に対する評価と治療が実践できる				
12	肩関節周囲炎①		肩関節の構造と機能、肩関節周囲炎の病態が理解できる 肩の構造と機能、障害部位、肩峰下滑液包炎、腱板断裂				
13	肩関節周囲炎②		上腕二頭筋長頭腱炎、石灰沈着性腱板炎、狭義の五十肩 肩関節周囲炎の評価と種々の病態に対応した治療が出来る				
14	各疾患の評価・治療まとめ		まとめ				
15	各疾患の評価・治療まとめ		まとめ				
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	70%	実技試験	20%
				受講態度	10%		0%
【教科書】運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)							
【参考書】PT・OTビジュアルテキスト局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学知識(筋の走行など)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)	
			【曜日・コマ】	後期・木 1・2	【授業形態・単位】	講義・演習 3	
【授業の概要】 種々の運動器障害に対する基本的な手技の理論が理解でき、実際に学生同士でその手技を実行できるようにする。本講義は講義形式と演習形式が含まれる					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験 論理的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①種々の運動器障害の病態に対する知識を習得し理解を深める。 ②種々の運動器障害に対する評価と治療法に関する考え方を理解する。 ③種々の運動器障害に対する検査と治療手技を行える。							
【履修上の注意】 実習の際は、触診・実技が可能な服装を用意する。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	膝靭帯損傷と半月板損傷①		膝関節損傷の発生機所と病態、整形外科的治療について理解できる ACL損傷、PCL損傷、MCL損傷、半月板損傷				
2	膝靭帯損傷と半月板損傷②		膝固有の障害に対する評価ができる 不安定性テスト、筋力検査、特殊テスト、パフォーマンステスト				
3	膝靭帯損傷と半月板損傷③		膝固有の障害に対する治療ができる 関節可動域訓練、固有受容各トレーニングなど				
4	捻挫と肉離れ①		捻挫と肉離れの病態、整形外科的治療について理解できる 足関節捻挫、アキレス腱断裂、ハムストリングの肉離れ				
5	捻挫と肉離れ②		急性期から慢性期にかけての評価・治療が実践できる RICE処置、物理療法、筋力増強トレーニング、関節可動域訓練				
6	捻挫と肉離れ③		テーピングの理論について理解し、 テーピングを利用した足関節内反捻挫の予防ができる				
7	捻挫と肉離れ④		テーピングを利用した足関節内反捻挫の予防ができる				
8	捻挫と肉離れ⑤		障害予防のためのテーピングを実践できる				
9	臨床推論①		臨床的推論(clinical reasoning)の理論と臨床応用について理解する。				
10	臨床推論②		運動器障害を有する患者の動作から仮説を立て、評価項目を列挙できる				
11	臨床推論③		各評価結果に対する解釈を行い、小グループによる討論を行う				
12	臨床推論④		評価結果を吟味し、目標設定にあった統合と解釈を行うことができる				
13	臨床推論⑤		ICFによって問題点を抽出し、症例の目標設定、治療プランの立案ができる				
14	特別講義		臨床での理学療法士の役割を理解する				
15	(佐藤)						
期末 試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	
					0%	0%	
【教科書】運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト)							
【参考書】PT・OTビジュアルテキスト局所と全身からアプローチする運動器の運動療法 第1版							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学知識(筋の走行など)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 老年期理学療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	荒木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	火 2	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 高齢者の機能障害に対する運動療法について、理解を深めるために基礎知識の確認、高齢者の運動機能の特性について理解する。高齢者の運動療法のエビデンスについて理解する					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 知識・理解 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①高齢者の身体的特性を理解する。 ②老年期の運動療法に対するエビデンスを理解する ③高齢者に対する運動プログラムの作成、再評価が出来ることを目的とする						
【履修上の注意】		神経系の生理学を復習しておくこと				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	ライフステージと高齢者像		高齢者定義と分類を理解し、高齢者の心理を理解する 高齢者定義と分類を理解し、高齢者の心理を説明できる			
2	加齢に伴う心身機能の変化		高齢者の運動・感覚・記憶等の機能について理解する 高齢者の神経機能の変化について説明が出来る			
3	老年症候群		高齢者に主に起こる多彩な症状について理解する 高齢者の疾患について説明が出来る			
4	高齢者の生活機能		高齢者のADLに関する各種検査の特徴を理解する 認知面・ADL・QOLの評価を理解し評価することが出来る			
5	高齢者の健康寿命の延伸		日本の介護事情について理解する 介護予防と、その実態について説明が出来る			
6	高齢者の理学療法の留意点		高齢者の身体的特徴を理解し、留意点について理解する 高齢者の理学療法の留意点を説明できるようになる			
7	骨・関節疾患の理学療法①		大腿骨頸部骨折の障害像と症状について理解する 大腿骨頸部骨折の理学療法について説明が出来る			
8	骨・関節疾患の理学療法②		変形性関節症の病態及び症状を理解する 変形性関節症の病態及び症状を理解し、その理学療法について説明が出来る			
9	脳血管障害の理学療法		脳及び脳血管の形態とその障害像について理解する 脳血管障害の理学療法の特徴について説明できる			
10	パーキンソン病の理学療法		パーキンソン病の病態生理・症状について理解する パーキンソン病の理学療法の特徴について説明できる			
11	糖尿病の理学療法		高齢者の糖尿病の特徴を理解する 高齢者の糖尿病を理解し、理学療法の概要を理解し説明が出来る			
12	循環障害(心疾患)の理学療法		高齢者の心疾患の概要を理解する 高齢者の心疾患の理学療法を発症からの期間ごとに分けて説明できる			
13	呼吸器疾患の理学療法		高齢者の肺疾患の病態生理と症状を理解する 高齢者の心疾患の理学療法を発症からの期間ごとに分けて説明できる			
14	地域高齢者と理学療法		介護老人保健・福祉施設や通所・訪問リハの現状について理解する 介護サービスの現状について説明が出来る			
15	高齢社会の課題と展望					
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】シンプル理学療法学シリーズ：高齢者理学療法学テキスト						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			高齢者の身体機能について学ぶ			
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

# 授業名： 小児発達系理学療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
安中 聡一	病院 8年勤務	安中	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 小児理学療法における代表的な疾患、障害の特徴、理学療法の考え方と実際について、講義、少グループによる討議、および実技演習を通して学習する。					【受講して得られる力】 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①バイタルサインなどの特徴を説明し、モニターの所見について基本的な判断が行える。 ②発達検査、運動能力テスト、日常生活活動能力評価をマニュアルに従って実施できる。 ③障害特性および対象児の発達段階に即した評価項目を挙げ基本的な評価をおこなうことができる。 ④一般的な問題点について教科書や授業で学習した範囲で適切な治療プログラムを選択することができる。						
【履修上の注意】 人間発達学・小児科学概論の復習を行い臨んでください。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	全身状態の評価とリスク管理	1.体温、心拍数、血圧、呼吸数、末梢動脈血酸素飽和度などバイタル・サインのモニター法と解釈について 2.新生児のストレスサインについて				
2	発達と生活機能の評価	1. 発達スクリーニング検査 2. GMFCS, GMFM, PEDI, WeeFIM. その他				
3	治療の考え方	1. 神経生理学的アプローチの考え方 2. 小児理学療法における課題指向型アプローチ				
4	ハンドリング技術1	1. 基本的な促通手技と抑制手技(実技演習) 2. 立ち直り反応を利用した基本的な運動および動作の誘導法(実技演習)				
5	ハンドリング技術2	1. 立ち直り反応利用した基本的な運動および動作の誘導法(実技演習) 2. 具体的な事例を想定したハンドリング(実技演習)				
6	ポジショニングとデバイス	1. 発達障害児に対するポジショニングの考え方 2. 姿勢保持装置、車いす、バギーなどのデバイス				
7	運動発達遅延に対する理学療法 (Down症候群を中心に)	1. Down症候群の障害の特徴などについて解説する。				
8	肢体不自由児に対する理学療法 (二分脊椎)	1. 二分脊椎の障害の特徴について解説する。				
9	肢体不自由児に対する理学療法 (筋疾患)	1. 進行性筋ジストロフィー症の障害の特徴を解説する。				
10	脳性麻痺に対する理学療法 (痙直型四肢麻痺)	1. 脳性麻痺痙直型四肢麻痺の障害の特徴を解説する。				
11	脳性麻痺に対する理学療法 (痙直型両麻痺)	1. 脳性麻痺痙直型両肢麻痺の障害の特徴を解説する。 2. 脳性麻痺痙直型四肢麻痺の障害の特徴を解説する。				
12	脳性麻痺に対する理学療法 (痙直型片麻痺)	1. 脳性麻痺痙直型片肢麻痺の障害の特徴を解説する。 2. 脳性麻痺痙直型両肢麻痺の障害の特徴を解説する。				
13	脳性麻痺に対する理学療法 (アトローゼ型)	1. 脳性麻痺痙直型片肢麻痺の障害の特徴を解説する。				
14	重症心身障害児に対する理学療法	1. 脳性麻痺アトローゼ型の障害の特徴を解説する。 2. 脳性麻痺アトローゼ型の障害の特徴を解説する。				
15	ハイリスク新生児に対する理学療法	1. ポジショニング、哺乳練習、呼吸理学療法を中心に解説する。				
期末 試験	前期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】小児理学療法学テキスト 改訂第2版(シンプル理学療法シリーズ)						
【参考書】脳性麻痺ハンドブック 第2版						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書と授業資料を使用して予習・復習を行ってください。						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 呼吸・循環器系理学療法学(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・水 1	【授業形態・単位】	講義・演習 2	
【授業の概要】 内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる					知識・理解 専門職としてのスキル・意識		
【履修上の注意】 毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	呼吸理学療法とは		呼吸理学療法の概要を理解する 呼吸器疾患の現状を知り、呼吸理学療法の必要性を認識する				
2	呼吸器の解剖と生理		呼吸理学療法を学ぶ上で必要な、解剖・生理について理解する				
3			気管・気管支・肺・肺胞・胸郭などの解剖と呼吸のメカニズムについて説明できる				
4	呼吸器疾患とそのメカニズムについて		低酸素血症および換気障害の分類について理解する 拘束性・閉塞性肺疾患とそのメカニズムについて説明できる				
5							
6							
7	呼吸理学療法評価		視診・聴診・触診など呼吸理学療法に必要な評価項目を学ぶ				
8							
9	呼吸理学療法手技		呼吸理学療法に必要な評価について実技を通して学ぶ				
10							
11	呼吸理学療法:評価実技		聴診、触診などの評価どの手技を体験する				
12							
13	呼吸理学療法:治療実技		呼吸介助法や体位肺痰法などの手技を体験する				
14							
15	まとめ		呼吸理学療法のまとめ				
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	
					0%	0%	
【教科書】内部障害理学療法学 呼吸 第2版 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト							
【参考書】特に指定しない							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。							
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・金 3・4	【授業形態・単位】	講義・演習 2
【授業の概要】 内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる						
【履修上の注意】 毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	循環器の基礎①	循環器系の解剖、生理を理解する 心臓リハビリテーションに必要な基礎知識を整理する				
2						
3	循環器の基礎②	心電図・不整脈の診かたについて、課題を実施し心電図への理解を深める				
4						
5	循環器疾患に対する評価	運動耐容能とその評価について理解する				
6	循環器疾患の病態・検査と治療	虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症などの 循環器疾患の病態と検査・治療について理解する				
7						
8						
9	虚血性心疾患に対する理学療法	ケーススタディをし、評価計画・解釈・治療プランの 立案を実施する				
10						
11	リスク管理	呼吸・循環器疾患におけるリスク管理について学び、救急救命法についての理解を深める				
12						
13						
14	心大血管術後の理学療法	心大血管術後のリスク管理と理学療法について理解する				
15	まとめ	呼吸循環器系理学療法学のまとめ				
期末 試験	後期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト						
【参考書】これならわかる！心電図の読み方～モニターから12誘導まで～						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。						
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】 教員室にて			



# 授業名： 日常生活技術演習(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
安中 聡一	病院 8年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・木 3	【授業形態・単位】	演習・実習 2
【授業の概要】				【受講して得られる力】		
対象者の生活像を把握し効果的な援助・指導を行う為に、基本動作および移乗動作の観察・分析および指導方法・介助方法を身につけます。				前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力		
【学習目標(到達目標)】						
①基本動作の観察および分析を行い説明できる。 ②各種疾患の基本動作・移乗移動の指導・介助のポイントを列挙できる。 ③各種疾患の基本動作・移乗動作の指導・介助を愛護的に行うことができる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 総論	科目概要、本講義の意義、すすめ方の説明				
2	動作観察総論 バイオメカニクス	動作観察の意義、手順を学びます。 支持基底面・重心・重心移動のおさらいをします。				
3	動作観察 寝返り動作	動作のメカニズムを学びます。 動作観察(演習)				
4	動作観察 寝返り動作	動作観察(演習) 動作観察(発表とディスカッション)				
5	動作観察 起き上がり動作	動作のメカニズムを学びます。 動作観察(演習)				
6	動作観察 起き上がり動作	動作観察(演習) 動作観察(発表とディスカッション)				
7	動作観察 立ち上がり動作	動作のメカニズムを学びます。 動作観察(演習)				
8	動作観察 立ち上がり動作	動作観察(演習) 動作観察(発表とディスカッション)				
9	日常生活活動と介助技術	ADLと介助技術について学びます。				
10	移乗の基礎	移乗の基礎理論と技術について理解し実践します。				
11	ベッド周辺動作	ベッド周辺動作について理解し実践します。 寝返り				
12	基本動作の介助・指導	起き上がり 床からの立ち上がり				
13	基本動作の介助・指導	立ち上がり 座り込み				
14	基本動作の介助・指導	まとめ				
15	実技	実技試験				
期末 試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	60%		0%
			実技試験	40%		0%
【教科書】PTOTビジュアルテキストADL(羊土社) / 姿勢と動作 ADLその基礎から応用(メヂカルフレンド社)						
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎知識の確認、実技の復習						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】教員室にて			

授業名： 日常生活技術演習(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・月 1・2	【授業形態・単位】	演習・実習 2	
【授業の概要】 対象者の生活像を把握し効果的な援助・指導を行う為に、基本動作および移乗動作の観察・分析および指導方法・介助方法を身につけます。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力		
【学習目標(到達目標)】 ①基本動作の観察および分析を行い説明できる。 ②各種疾患の基本動作・移乗移動の指導・介助のポイントを列挙できる。 ③各種疾患の基本動作・移乗動作の指導・介助を愛護的に行うことができる。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。 起居・移乗・移動動作の介助について実施する。(演習)				
2	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。 更衣・排泄・入浴動作の介助について実施する。(演習)				
3	指導と介助方法の基本 脳卒中片麻痺		脳卒中片麻痺患者の介助方法と指導方法を理解する。 食事・整容・その他の動作介助について実施する。(演習)				
4	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷患者の介助方法と指導方法を理解する。 脊髄損傷患者の疾患・機能障害の概要について学習する(講義)				
5	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷(四肢麻痺)患者の介助方法と指導方法を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)(キャスター上げ含む)				
6	指導と介助方法の基本 脊髄損傷		脊髄損傷(対麻痺)患者の介助方法と指導方法を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)(キャスター上げ含む)				
7	指導と介助方法の基本 パーキンソン病		パーキンソン病患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
8	指導と介助方法の基本 神経筋疾患		神経筋疾患患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
9	指導と介助方法の基本 認知症		認知症患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
10	指導と介助方法の基本 脳性麻痺		脳性麻痺患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
11	指導と介助方法の基本 呼吸器疾患		呼吸器疾患患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
12	指導と介助方法の基本 心疾患		心疾患患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
13	指導と介助方法の基本 関節リウマチ		関節リウマチ患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
14	指導と介助方法の基本 人工関節全置換術		人工関節置換術患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
15	指導と介助方法の基本 下肢骨折		下肢骨折患者のADL動作の特徴を理解する。 動作の特徴・動作介助について実施する。(演習)				
期末 試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	80%	0%	
				実技試験	20%	0%	
【教科書】PTOTビジュアルテキストADL(羊土社) / 姿勢と動作 ADLその基礎から応用(メヂカルフレンド社)							
【参考書】ここがポイント整形外科疾患の理学療法 改訂第2版/その他随時紹介							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】基礎知識の確認、実技の復習							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
十文字 雄一	病院 8年勤務	十文字	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 3・4	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 対象者の健全なスポーツへの取り組みをサポートするために、メディカルサポートとトレーニングサポートの現状、競技特性や障害発生メカニズムを理解する					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】 ①スポーツ理学療法のかかわりについて説明できる ②各競技特性を理解し、理学療法士の関わり方について自分の考えを説明できる							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	スポーツ理学療法の概要①		スポーツと理学療法の関わりについて説明できる。				
2	スポーツ理学療法の概要②		スポーツシューズ、スポーツウェアについて理解する。				
3	アンチドーピング		アンチドーピングの知識・対応の仕方を説明できる。				
4	応急処置①		スポーツセーフティーの知識を深める。 BLSについて理解し、緊急時の行動を説明できるようにする。				
5	応急処置②		熱中症、脳振盪時の評価・対応の仕方を理解できる。				
6	メディカルチェック		メディカルチェックの意義と基本的なメディカルチェックを知る。				
7	メンタルトレーニング		メンタルトレーニングの目的を理解する。 スポーツ障害の心理的問題を理解する。				
8	走行について①		走行について理解できる。 短距離・長距離の違いを理解できる。				
9	競技種目別		①各種競技の特徴(動作など)を記述できる ②各競技・ポジションで起こりやすい障害を記述できる ③傷害に対する、スポーツ医学・理学療法を記述できる ④各種競技パフォーマンス向上を図る理学療法を記述できる				
10							
11							
12							
13	発表		各種競技の理学療法を説明できる				
14	特別講演  (赤羽)		①スポーツ現場における理学療法士の役割について理解する ②コンディショニングの意義と評価について理解する				
15							
期末試験			評価方法	筆記試験	50%	レポート	30%
				発表会の結果	20%		0%
【教科書】改訂第2版 スポーツ理学療法学 監修 陶山哲夫 MEDICALVIEW							
【参考書】ジュニアアスリートをサポートする スポーツ医科学ガイドブック 編集 金岡 恒治他							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】運動学の知識(筋の作用など)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

# 授業名： 地域理学療法学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学	【学年】	3
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 5	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 理学療法士に求められる「地域」での役割を知り、現代社会の課題を解決する「地域理学療法」の可能性を模索する科目です					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①地域包括ケアシステムを説明できる ②介護予防教室の企画・計画を立案できる ③症例に合わせたケアプランの立案ができる ④地域で働く理学療法士の業務と社会制度を覚える					チームで働く力 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション 地域リハビリテーションについて	地域リハビリテーションの考え方、役割を学ぶ 教科書①:p14～p49、p110～121				
2	地域リハビリテーションの 関連制度と関連法規	様々な保険のしくみ、地域包括ケアシステムについて学ぶ 教科書①:p50～73				
3	地域におけるリスクマネジメント	リスクマネジメントの概要と必要な知識と技術を学ぶ 教科書①:p91～p108				
4	介護予防について	サルコペニア予防、フレイル高齢者に対する介入として、何が有用かを学ぶ 教科書①:p209～p223				
5	認知症予防	認知症予防のための運動プログラムを学ぶ 教科書①:p224～p241				
6	認知症予防のまとめ	認知症予防のための運動プログラム(認知症予防教室の運営)を考える 教科書①:p224～p241				
7	転倒予防	転倒予防のための必要性について学ぶ 教科書①:p242～p253				
8	転倒予防のまとめ	転倒予防のための運動プログラム(転倒予防教室の運営)を考える 教科書①:p242～p253				
9	地域の災害と災害支援	災害時のチーム医療について学ぶ 教科書①:p277～p293				
10	地域での起業と社会貢献	療法士が起業する意味を学ぶ 教科書①:294～p322				
11	ケアプランについて	介護計画書について学ぶ キーワード:介護保険、ケアプラン、介護支援相談員				
12	ケアプランの作成体験	症例に合わせた介護計画書を作成する キーワード:介護保険、ケアプラン、介護支援相談員				
13	吸引概要	喀痰吸引実施の手順と留意点について理解する 参考:国立長寿医療研究センター 吸引 口・鼻からの吸引パンフレット				
14	喀痰吸引実技演習	シュミレーターを使用し喀痰吸引の実技演習を実施する 参考:国立長寿医療研究センター 吸引 口・鼻からの吸引パンフレット				
15	ユマニチュードについて	認知症ケア技術を学ぶ ※DVD鑑賞				
期末 試験	前期期末試験	評価方法	筆記試験	100%		0%
				0%		0%
【教科書】①PT・OTビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版						
【参考書】国立長寿医療研究センター 吸引 口・鼻からの吸引パンフレット(ホームページにてダウンロード可)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名： 実習オリエンテーション(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(45)
			【曜日・コマ】	木 4・5	【授業形態・単位】	演習・実習 1
【授業の概要】 臨床現場に臨むために必要な、検査測定計画立案および実施のためのリスク管理や配分を学びます。評価実習で求められることを知ることで実習に赴く体制を整えます。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①整形外科領域各種疾患の検査測定計画を立てることが出来る。 ②自ら立てた検査測定計画を配分し、リスク管理のもとに実施出来る。 ③検査測定結果を分類し・分別し因果関係を説明出来る。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	オリエンテーション		授業の進め方、評定方法、総論			
	OSCEについて		OSCEの目的、内容、過程を理解します。			
2	疾患別の検査・測定 股関節		疾患の理解に必要な知識を確認します。 検査測定計画の立案を行います。			
3	疾患別の検査・測定 股関節		検査測定を実施します。			
4	疾患別の検査・測定 股関節		因果関係の考察、チャートの作成を行います。 発表およびディスカッションを行います。			
5	疾患別の検査・測定 体幹・脊柱		疾患の理解に必要な知識を確認します。 検査測定計画の立案を行います。			
6	疾患別の検査・測定 体幹・脊柱		検査測定を実施します。			
7	疾患別の検査・測定 体幹・脊柱		因果関係の考察、チャートの作成を行います。 発表およびディスカッションを行います。			
8	疾患別の検査・測定 膝関節		疾患の理解に必要な知識を確認します。 検査測定計画の立案を行います。			
9	疾患別の検査・測定 膝関節		検査測定を実施します。			
10	疾患別の検査・測定 膝関節		因果関係の考察、チャートの作成を行います。 発表およびディスカッションを行います。			
11	疾患別の検査・測定 足関節		疾患の理解に必要な知識を確認します。 検査測定計画の立案を行います。			
12	疾患別の検査・測定 足関節		検査測定を実施します。			
13	疾患別の検査・測定 足関節		因果関係の考察、チャートの作成を行います。 発表およびディスカッションを行います。			
14	疾患別の検査・測定 肩関節		疾患の理解に必要な知識を確認します。 検査測定計画の立案を行います。			
15	疾患別の検査・測定 肩関節		検査測定を実施します。			
期末試験	客観的臨床能力試験(OSCE) (整形外科領域)		評価方法	OSCE	80%	0%
				レポート	20%	0%
【教科書】3日間で行う理学療法臨床評価プランニング						
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

# 授業名： 実習オリエンテーション(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	(45)
			【曜日・コマ】	木 4・5	【授業形態・単位】	演習・実習 1
【授業の概要】 臨床現場に臨むために必要な、検査測定計画立案および実施のためのリスク管理や配分を学びます。評価実習で求められることを知ることで実習に赴く体制を整えます。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】 ①整形外科領域各種疾患の検査測定計画を立てることが出来る。 ②自ら立てた検査測定計画を配分し、リスク管理のもとに実施出来る。 ③検査測定結果を分類し・分別し因果関係を説明出来る。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	疾患別の検査・測定 肩関節	因果関係の考察、チャートの作成を行います。 発表およびディスカッションを行います。				
2	疾患別のまとめ	全疾患のまとめ				
3	疾患別のまとめ	全疾患のまとめ				
4	実習の概要	評価実習、臨床実習の目的・概要 実習全体の流れを理解します。				
5	実習における提出物	実習における記載書類について理解します。 理学療法評価とは				
6	コミュニケーション	学生は何を評価されるかをイメージします。 報告・連絡・相談				
7	個人情報とリスク管理	個人情報の取り扱いについて学びます。 リスク管理と清潔・不潔				
8	まとめ	まとめ				
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
期末試験	客観的臨床能力試験(OSCE) (整形外科領域)	評価方法	OSCE	80%		0%
			レポート	20%		0%
【教科書】3日間で行う理学療法臨床評価プランニング						
【参考書】参考になるものがあれば、その都度紹介します。						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】 教員室にて			

授業名: 評価実習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3	
		荒木	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	(135)	
			【曜日・コマ】		【授業形態・単位】	実習 3	
【授業の概要】 臨地にて、学内で学んだ基礎・専門基礎・専門分野の知識・技術を総合的に適用し対象者を理解するために、臨床の場面で理学療法評価を体験、実践する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①対象者についての基本的な理学療法評価のまとめを作成することができる。 ②理学療法の一連の業務や役割について学ぶ。 ③チームの一員として、自覚と責任のある行動をとることができる。					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 情報活用能力 態度・志向性 統合的学習体験 創造的思考力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	医療施設及び福祉施設での 評価実習 (令和3年1月4日 ～令和3年1月29日)	<p>実習指導者による、ある程度の助言のもとに基本的理学療法評価(情報収集、検査測定、統合解釈、問題点抽出、ゴール設定、治療プログラム立案まで)を実施できる。</p> <p>情報収集及び検査測定結果を正確に記録し、指導者の考えをカルテなどにして他者にわかりやすく伝えることができる。</p> <p>病院、施設職員と良好な関係性を築き、対象者(患者または利用者)に対して節度ある立ち居振る舞いができる。</p>					
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
期末試験	学内症例報告会	評価方法	実習評価	80%		0%	
			発表会の結果	20%		0%	
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】				教員室にて